

- 学力向上総合対策事業 (ミドルリーダー研修について)
- 学力向上総合対策事業 (学力向上の集い)
- グローバル人材育成郷土学習教材作成事業について
- 工業系高校生実践的技術力向上事業
- キャリアビジョン形成支援事業 / 県立市川高等学校
- 自ら学ぶ図書館活用事業 / 県立白根高等学校
- 身近な地域スポーツ促進事業
- 博学連携の推進 / 県立美術館
- 博学連携の推進 / 県立博物館
- 分かる授業のためのICT活用研修について
- 学校紹介 / 北杜市立須玉中学校・県立わかば支援学校
- 県立美術館「新収蔵品展」
- 県立美術館特別展「バロックの巨匠たち」
- 県立文学館特設展「歿後五十年 山本周五郎展」
- 県立博物館企画展「ブータン しあわせに生きるためのヒント」
- 県立考古博物館春季企画展と関連イベント開催のお知らせ
- 山梨近代人物館紹介 / 「郷土のために尽くした人々」
- 山梨の文化財 / 甲斐国分寺跡
- 全国高校総体スケート競技大会、国民体育大会冬季大会スケート競技会のお知らせ
- 「第3回贈りたい本大賞」が決まりました

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル「楽しかったソーラン節」

身延町立下山小学校

第6学年 まえざわ 前澤 かづき 佳月

指導者：山下 南美 教諭

山梨県教育委員会

「ミドルリーダー研修事業」を展開しています

～ 教員の資質向上と、子供たちの学力向上を目指して～

義務教育課

1 趣旨

本事業は、今年度から開始した新たな事業です。各学校におけるミドルリーダーとして期待される30代から40代の教員を対象に、学校におけるミドルリーダーとしての誇りや責任の自覚を養うとともに、教員としての更なるスキルアップを図ることを目的としています。

これまでに、若手教員の研修として、初任者研修、五年経験者研修、十年経験者研修、「若手教員グロウアップ事業」で指導や支援が行われています。また、管理職を対象とした研修も行われています。一方、30代から40代の教員への研修は不足しているため、教員の資質向上に向けた系統的な研修体制を整え、教育の質の向上を図る必要があると考え、本事業が展開されています。

本事業の特徴は、他県の授業研究会やフォーラムに参加するなど、座学ではなく他県の優れた実践にふれる体験的な研修を行うことです。また、視察先の関係者を講師として招聘し、取組の背景を知るなど、理論と実践を融合させることも特徴の一つです。

本事業を通して、研修参加者が学校におけるミドルリーダーとしての誇りと責任を自覚し、更なるスキルアップを図ることで、学校の中心となって学力向上への取組を推進することが期待されます。

2 事業の具体的な内容

- (1) 研修対象者
山梨県内30代～40代前半の教員
20名

- (2) 研修内容

①事前研修会

⇒ 研修の概要及び視察の目的、日程等の確認。

②他県への視察

⇒ 平成28年度は、青森県に9名、仙台市に11名の教諭を派遣。

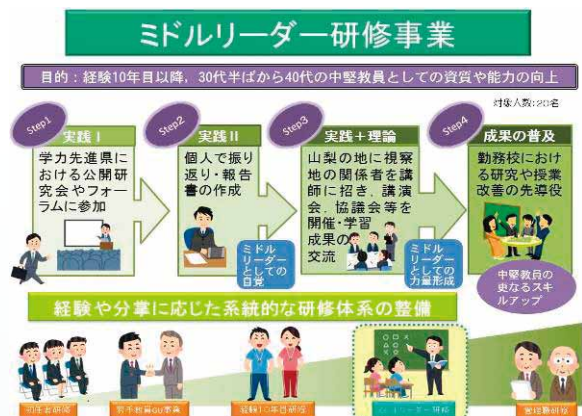
※2日間かけて、授業の参観、研究協議会への参加、教育委員会の視察を行う。

③研修報告書の作成、提出

⇒ 研修で得た知見についてまとめ、提出。

④事後研修会（視察地の関係者を講師として招聘する研修会）

⇒ 研修報告書を基に、振り返りと協議。理論と実践の融合。



視察参加者の声



視察先では、参加者から意見や質問が積極的に出された。

「広い視野を持ち、目指す児童の姿を第一に考えながら、中堅的な立場の教師として仲間と協力し、学校全体を、そして山梨の子供たちを世界に誇れる人間として育てていきたい。」
「貴重な機会をいただいた方々に深く感謝し、学んだことを今後の学校づくりや授業づくり、学級づくりに生かしていきたい。」等、すべての視察参加者にとって今後の取組への意欲が高まった機会となっています。

学校・家庭・地域の連携による学力向上を目指して

～ 子供たち一人一人に確かな学力を～

義務教育課

平成28年度学力向上総合対策事業「学力向上の集い」

(1) 「学力向上の集い」のねらい

県下各地で「学力向上の集い」を開催し、家庭教育に対する保護者の悩みや相談に応じながら、家庭教育への保護者の認識を深めることにより、児童・生徒の家庭における学習習慣の充実を図る。

(2) 開催地区・講師・開催日・会場等

地区	講師		開催日時	会場
富士 ・東部	講師	副島 賢和 氏	11月7日(月) 18:00～20:00	都留市うぐいすホール小ホール
	(昭和大学病院さいかち学級担任)			
	演題『地域で育む子どものコミュニケーション力』			
甲府	講師	堀之内 睦男 氏	11月8日(火) 18:45～20:00	甲府市教育研修所
		市川 修策 氏		
	(甲府市教委学力向上専門員)			
演題『基礎学力の向上と生きる力～家庭と学校のつながりを大切にしたい取組を考える～』				
峡南	講師	進藤 聡彦 氏	12月2日(金) 19:00～20:30	身延総合文化会館
	(山梨大学教育学部教授)			
	演題『子どものやる気を育む～学習の習慣化～』			
峡東	講師	清水 宏幸 氏	11月16日(水) 19:00～20:30	山梨市民会館
	(山梨大学大学院准教授)			
	演題『これからの社会に生かす学力の育成 ～学校と社会の更なる連携のもとに～』			
中北	講師	寺崎 千秋 氏	11月15日(火) 18:45～20:15	敷島総合文化会館大ホール
	(文部科学省政策評価委員)			
	演題『学力を支える家庭環境づくり』			

・県教育委員会との連携のもと、各教育事務所及び甲府市教育委員会が主体となり、県下4教育事務所所属の地域学力向上推進幹を中心に、地域課題に沿ったスタイルで実施。

(3) 各地区の集いから ～峡東地区の事例～

○講師 山梨大学大学院准教授 清水 宏幸 氏

○演題 「これからの社会に生かす学力の育成 ～学校と家庭の更なる連携のもとに～」

○内容

- ・学校との密なる連携～これからの社会に求められる学力とは
- ・次期学習指導要領改訂作業について
- ・各教科が育成する資質・能力
- ・主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）について

○H28年度全国学力・学習状況調査結果について

○思考力と表現力の育成について

- ・児童生徒が自分の考えを記述すること
- ・児童生徒の心をひらくこと

○学校と家庭の更なる連携を

- ・大人が、子供たちのために、真剣に、学力向上や資質能力の獲得を考える時が来ている
- ・山梨の子供たちの生活習慣の基盤は整っている
- ・力を付けるためには、日々の積み重ねが大切
- ・各校の調査結果の分析をもとにした授業改善が必要
- ・家庭における、将来を見据えた長い目での支援が求められる
- ・学校との密なる連携が必要



⇒「満足・やや満足」94.9% ～参加者の満足度の高さがうかがえます。

⇒総参加者の6割近くが保護者であり、集いの趣旨である保護者の意識啓発につながったと考えます。

<寄せられた参加者の声>

- ・学力調査の問題作成の立場のねらいを全く知らなかったのが、大変参考になりました。今まで、子供と一緒にテストの見直しをしたことがなかったので、もったいないことをしていたと思いました。(保護者)
- ・山梨県の学力状況、生活の中での様々な項目へのとらえ方、現状を詳しく教えていただきました。これからの変化の激しい環境、未来を生きていく子供たちに必要な学力について考えることのできた時間となりました。(保護者)
- ・思考をするためには、まず物事を自分事として考える姿勢を身に付けさせる必要があると感じました。また、思考→表現で終わってしまいがちなので、思考→表現→思考の流れを大切にしたいと思いました。(教職員)
- ・家庭学習の充実という点について悩んでいます。考えること、自分の思いをまとめること、その子に出来ることを大切に、何とか取組のスタートラインに立たせていきたいです。(教職員)
- ・山梨県の子供たちは、学力が低いと報道されることが多く、心配な面もありましたが、生活の基盤は整っており、思考力も平均より高いことが分かりました。まだまだ伸びる力をもつ山梨の子供たちの教育に前向きに取り組みたいと思いました。(教職員)

(4) まとめ

県下5地区で開催してきている学力向上の集い。報告から、どの地区も学力向上・家庭学習習慣の定着に向けて、大変満足度の高い充実した機会となったことが伝わってきました。参加者も、一昨年度が全県で693名、昨年度が937名、そして本年度が979名と年々増加し、学校や保護者の関心の高まりが感じられます。一方で、開催時期や実施形態等において、より実効性を高めるために改善の余地も残されています。各地区の集いが、参加した先生方や保護者の心に火をつけ、それが子供たちのやる気につながる…そんな契機となるよう、来年度に向けてさらなる検討を重ねていきたいと考えます。昨年秋に県教委が発出した「家庭学習のすすめ」の取組とともに、学校の授業と家庭学習が有機的につながり、一人一人の子供たちに確かな学力を身に付けさせるため、今後も、学校・家庭・地域・行政が一体となった不断の努力を真摯に続けていきます。

グローバル人材育成郷土学習教材作成事業について

『ふるさと山梨 Yamanashi - 郷土を愛し、未来を拓く-』を発行

義務教育課

1 基本理念

これからの山梨県を担う小中学生に郷土学習を通じて、郷土を愛し、より良い地域づくりに参画する態度をもち、山梨の魅力国内外に発信できる資質・能力を育成することは、大変重要です。

県教育委員会では、これまでも郷土学習教材『ふるさと山梨』（平成20年発行）を活用した郷土学習を推進してきました。グローバル化への対応、地域創生が求められる現在において、郷土学習の重要性がますます高まっています。そこで、新たな郷土学習教材を作成し、郷土学習をより充実していきます。

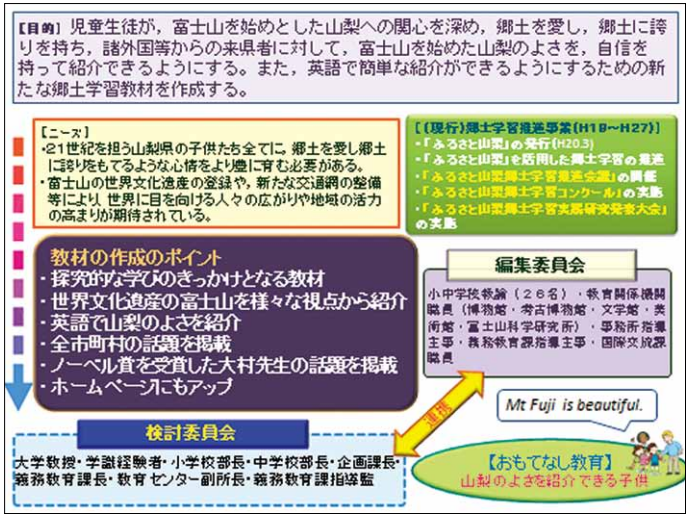
2 教材（小学校版・中学校版ともに全160ページ）の特徴

- ・ 探究的な学びのきっかけとなる教材です。
- ・ 各教科、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間、読書など、様々な学習において活用できます。大人が読んでも楽しい内容です。
- ・ 世界文化遺産となった富士山を様々な視点から紹介しています。
- ・ 全市町村の話題を掲載しています。
- ・ ノーベル賞を受賞した大村先生の話題を掲載しています。
- ・ 英語で山梨を紹介するページを掲載しています。

3 活用について

検討委員・編集委員が、学習指導要領を意識して、読みやすく活用しやすい教材作りに努めました。平成29年2月末日頃に、各学校に1学年分の児童・生徒数を配布します。3月中に教材の教師用指導書・ワークシート・授業活用例を義務教育課のホームページで紹介します。

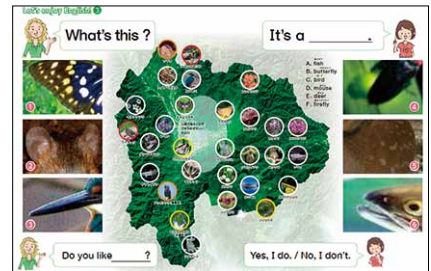
一般の方々にも読んでいただけるよう、公立図書館にも配布します。また、教材のホームページ版を平成29年3月末日頃に県のホームページにアップする予定です。山梨のすばらしさを再発見してください。



【第1章】山梨をながめてみよう
 【第2章】富士山とわたしたち
 【第3章】わたしたちのふるさと山梨
 【第4章】ふるさと山梨のまち
 【第5章】ふるさと山梨を未来へつなぐ

この本は、自主学习 探求活動の展開 読書の調べ学習
 お出かけ前の先行調べ ワイズをつくる読書活動がしし。
 探求でなくてもみんなが活躍でき自立します。
 君は、どんな態度で使うのかな。

○どのページからも読えるようになっています。読んでみたいページ、読んでみたいページから読んでみましょう。
 ○156ページに「さくいん」があります。調べたいことをさがす時に便利です。
 ○キャラクターといっしょに学習しましょう。



小学校版 画像はイメージです。

【第1章】ふるさと山梨を大観して
 ふるさと山梨の特色を、さまざまな資料から大観しましょう。

【第2章】ふるさと富士山
 世界文化遺産に認定された富士山。山梨県は富士山と深い関わりがもたらされました。富士山にまつわる様々な話を、山梨県民の視点から紹介していきます。

【第3章】ふるさと山梨をめぐって
 豊かな自然が魅力の山梨が、よく愛される土地に発展したのには、様々な理由がありました。山梨の魅力を山梨県民の視点から紹介していきます。

【第4章】わたしたちのふるさと山梨
 27の市町村には、それぞれ異なる魅力があります。それぞれの魅力の姿を知り、よりよいふるさと山梨を築いていくために活用しましょう。

【第5章】未来を拓く
 山梨には、そして山梨には、未来の可能性が広がります。あなたも、山梨の未来や山梨の魅力を発信していきましょう。

いろいろな場面で活用できます。10ページを参考に授業・学習の場面で活用してください。

○各教科、特別活動、総合的な学習の時間、読書など、さまざまな学習において、あなたも山梨の魅力を伝える機会を創出しましょう。調べたことや考えたことを、自分なりに表現してください。

○どのページからも読えるようになっています。読んでみたいページ、読んでみたいページから読んでみましょう。

○各教科には活用できます。調べたいことを探るとともに便利です。

○6人のキャラクターが登場します。3人の小学生、2人の先生、A先生、そしてペンギンくん。『山梨のふるさと山梨』のペンギんくんは、あなたに『山梨のふるさと山梨』の魅力を伝えてくれます。



中学校版 画像はイメージです。

ふるさとを想う未来を拓く

大村賢先生ノーベル賞受賞・医学賞受賞

(1) 賞状の由来
 ノーベル賞は、スウェーデンのノーベル財団が主催する賞です。医学賞は、医学の発展に貢献した人物に贈られます。大村先生は、がん研究に貢献し、ノーベル賞を受賞されました。

(2) どんな人だったのか
 大村先生は、山梨県出身の医師です。がん研究に没頭し、ノーベル賞を受賞しました。大村先生の偉業を学び、山梨の未来を拓くために努力しましょう。

(3) 大村先生からのメッセージ
 大村先生は、山梨の未来を拓くために努力してください。山梨の魅力を発信し、山梨の未来を拓くために努力してください。

平成28～30年度実施
「工業系高校生実践的技術力向上事業」について
 高校教育課

1 経緯

- 本県の製造業を中心とした中小企業では、団塊世代の熟練技術者の大量退職や若者のものづくり離れが深刻化する中で、技術・技能の継承や若手技術者の育成が喫緊の課題となっています。
- 本県の雇用と経済を支えている基幹産業を持続・発展させていくためにも、これまで工業系高校において実施してきたものづくり人材育成事業を継承し、あらたに本事業を実施していくこととなりました。

2 事業目的

- ものづくりを支える専門的職業人を育成するため、地域産業界と工業系高校が連携し、生徒の企業実習や企業技術者による実践的授業等を実施し、工業系高校生の実践的な技術力の向上を図る。
- 地域産業界が必要とするフライズ技術者を育成するため、工業系高校に技能検定に対応したフライズ盤を導入し資格取得を推進する。(地方創生加速化交付金事業)

3 事業内容

(1) 対象校

県内工業系高校6校(韮崎工業、甲府工業、甲府城西、峡南、都留興譲館、富士北稜)の全学科と工業系列

(2) 期間

平成28～30年度(3年間)

(3) 内容

- ① 企業現場実習
 - ・ものづくりへの視野を広げ県内製造業を知る機会とするための「短期企業実習」を実施。(学校設定科目、工業科「企業実習」の原則履修化)
 - ・専門的な知識や技術・技能を身に付けるための「先端技術実習」を実施。
 - ・実践的な専門技術・技能、社会人基礎力を育成するため、10日間以上の「長期企業実習」を実施。
- ② 企業技術者からの実践的授業
 - ・企業等の技術者から、現場で必要となる実践的な技術・技能を学び、技能検定3級や、2級等のさらなる高度な資格の取得に繋げていく。
- ③ 産短大、関係機関等との連携
 - ・都留キャンパスとの効果的なカリキュラム連携による工業人材の育成。
 - ・山梨大学、ポリテクセンター山梨等からの技術支援。
- ④ 教員の技術力向上研修・企業実習
 - ・高度な技術に対応するため「企業実習」や「企業技術者実践的授業」に教員も参加。
 - ・産短大、山梨大学等での教員の技術研修を実施。
- ⑤ フライズ盤の導入
 - ・技能検定フライズ加工3級への取組を通して、フライズ技術者の育成を図る。



キャリアビジョン形成支援事業

～ if キャリアプランニング力育成プロジェクト ～

県立市川高等学校

1 はじめに

本校では所在地である市川三郷町内に在住または勤務をされている、産業、文化・芸術、教育、福祉等の分野で活躍されている方々に、本校独自の「if（いちかわファミリー）キャリア人材バンク」に登録をしていただき、地域の方々との連携を図りながら、生徒が社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を身につけることを目標に、「if キャリア人材バンク」を活用したキャリア教育を進めています。

2 if キャリアプランニング力育成プロジェクト

本校では平成20年度より1年生を対象に、「if キャリアプランニング力育成プロジェクト」を実施しています。本事業は、「if キャリア人材バンク」に登録をしていただいている方々を講師としてお招きし、多種多様な講義を通して、「産業、文化、歴史等の地域の特色を理解し、ふるさとで生きることの魅力を感じ取る」、「様々な職業について理解し、自己の将来に結びつく職業観を育む」、「人生の先輩の生き方から自らの将来を考え、生き方を探る」、「地域や社会の多様な課題に目を向け、主体的、実践的に学ぶ」ことをねらいとしています。

(1) 実施の流れ

7月	当該年度の講師の登録 講師への講義の依頼、日程調整	10月	総合的な学習の時間にて実施 1講座90分×2回
9月	生徒の講座登録（調整後、2講座を決定） 講師との連絡・調整、講義の準備 ワークブック準備		講座後、ワークブックまとめ 生徒・講師対象アンケート実施 感想文集『受講の足跡』作成

(2) 講座内容

	キーワード	講座(テーマ)
1	花火づくり	花火の歴史と神明の花火
2	紙づくり	市川和紙に関わり学んだこと～物づくりに必要な様々なこと～
3	印鑑づくり	篆刻体験と印章の話
4	災害対策	地域のインフラストラクチャー
5	幕末遣米使節団	市川三郷町からの幕末の万延遣米使節団
6	江戸時代の数学	和算について
7	地域文化の伝承	「旧二葉屋酒造」登録有形文化財 保存と伝承
8	漢詩	「蛾眉山月の歌」～漢詩を楽しむ～
9	職業選択	アナウンサーとして感じている事
10	社会の見方	社会とつながろう、世界を見よう
11	介護	介護士という職業
12	児童福祉	幼児期における愛着形成の重要性～里親体験を通して感じたこと～

現在、「if キャリア人材バンク」に登録されている方々（20名）の中から、本年度は12名の方に講座をお願いしました。生徒はそれぞれの興味・関心、進路希望等に応じて、2つの講座を選択し、受講します。

講座時間は90分で、講師の方々は生徒の興味・関心を喚起させるよう工夫を凝らし、熱意溢れる講義を展開してくださっています。地場産業である花火や和紙づくりでは伝統の技

に支えられた地域の誇る本物の良さに触れ、印鑑づくりでは篆刻体験により世界に一つだけのはんこを作り、またアナウンス原稿を読んだり、インタビューをしたり、更に介護の重要性を再認識したり、と普段なかなか知ることのできないものや体験することのできないことに触れるたいへん貴重な機会となっており、生徒たちも意欲的に取り組んでいます。

(3) 講座風景



和紙づくり



篆刻体験



アナウンス体験



介護体験

(4) 生徒の事後アンケート結果

アンケートからは、「地域の産業・文化・歴史について理解が深まった」、「職業に対する考え方に良い変化があった」、「将来や生き方を考えるきっかけになった」という肯定的な回答が8割を超える生徒から得られています。

(5) 生徒の感想（感想文集『受講の足跡』より抜粋）

- ・それぞれの仕事には、それぞれのすばらしさがあることを学んだ。また、普段の授業とは異なる講座だからこそ学べることをたくさん吸収することができた。
- ・自分の将来や職業について、考えることができた。自分の仕事について生き生きと話す姿に、自分のやりたいことをやっている人はとても素敵に思えて、夢を叶えるために今は勉強を頑張ろうと改めて思うことができた。
- ・伝統を受け継ぐことの難しさや大切さを知り、また、伝統を受け継ぐ人が秘めている熱い思いを感じた。何をしてもしっかりと技術と確かな知識を身につけ、興味や熱意を持って取り組まなければいけないと思った。
- ・地元の歴史や伝統、文化について触れ、地域への愛着が沸いた。市川高校と私たちを温かく見守ってくださっている地域の方々の思いを酌み取り、地域との交流や繋がりを大切にしていきたいと改めて感じた。
- ・様々な職業の人たちの話を聞いて、それぞれの仕事に対する熱意と誇りを感じ取ることができた。社会人として働くこと、生きていくことについて改めて考えるきっかけとなり、進路選択の参考になった。

3 おわりに

本事業は普段は接する機会の得られない様々な職種の方々による、授業とは異なる視点からの講義を通して、地域の産業や伝統・文化、歴史について学ぶとともに、社会や自身の進路について考える絶好の機会となっています。講師の方々からは、「地域に生きる人材を育てる」という並々ならぬ熱意が感じられます。生徒たちも地域の良さ、本校に寄せられる期待の大きさをしっかりと感じ取り、地域の一員として、「地域のことについて知らないことがたくさんあった」と新たな発見をし、更に地域の伝統・文化を受け継いでいくことの必要性を感じ、「地域の伝統・文化を守るために自分たちにできることはないか」と意欲を見せています。

今後とも地域の方々と連携しながら、有意義なキャリア教育を進めていきたいと考えています。

自ら学ぶ図書館活用事業

～ 図書委員会活動を中心として～

県立白根高等学校

1 はじめに

白根高校の図書館は北館の1階、生徒の教室のある南館からは、生徒昇降口をはさんだ位置にあります。1クラス40名が入ると身動きがとれないほどになってしまう狭さが悩みです。毎日利用する生徒がいる一方で、ほとんど利用しない生徒もあり、図書館活用の促進を課題の一つとしています。今回は、図書委員会活動を中心に紹介いたします。

2 私の一冊

秋の読書週間にLHRの1時間もらい、生徒全員が薦める本を決め、各自がカードを描きます。仕上がったカードは、クラスごとに紙に貼り、全校分を廊下に掲示することで紹介します。今年も個性豊かな作品が並びました。生徒も互いの作品をよく見えています。



私の一冊

3 高校交流ポップ展

身延山高校、身延高校、市川高校、増穂商業高校、巨摩高校、農林高校、峡南高校と本校を含めた8校それぞれで、本を紹介するPOPを作成しました。それを、各校で巡回展示し「一番読みたくなったPOP」投票を行い、本への興味を引き出すことをねらいとしました。図書館部会秋季研究大会の司書教諭部会の研究で発表されました。



高校交流ポップ展

4 図書委員会活動 本のサプリメント

図書館を薬局にみたて、「〇〇な時に・・・」などの“症状”別に本を紹介するくじを作り、その時の気分に合わせてくじをひいてもらうものです。生徒たちにはとても好評で、紹介された本がよく貸し出されています。



本のサプリメント

5 図書館メイン展示

図書館入口に設置しています。毎月、図書委員で話し合っってテーマを決め、選書から展示までを行っています。またこのメイン展示をデジカメで撮り、生徒階段踊り場に設けた図書専用の掲示板に貼りだして全生徒の目に触れるようにしています。



図書館メイン展示

6 まとめ

少しでも図書館や本に興味をもってもらいたいと考え、今年度新たに階段踊り場に図書館専用の掲示板も設置しました。生徒には生徒からの紹介が好評です。これからも、積極的に図書委員会活動に取り組んでいきたいと考えています。



階段踊り場掲示板

身近な地域スポーツ促進事業

～ スポーツ JanJan ～

スポーツ健康課

1 はじめに

各地域における、スポーツを活用したコミュニティや健康で活力ある長寿社会の構築を目的として、身近な地域でスポーツに参加できる機会を創出し、スポーツ未実施率の縮減につなげる取り組みを促進するため、平成26年度より本事業を実施しています。

2 本年度の取り組み

● 「地域スポーツ推進協議会」の開催

本事業では、県内スポーツ関係団体代表者や各市町村代表者を地域スポーツ委員に委嘱して、身近な地域スポーツ活動の活性化に取り組む「地域スポーツ推進協議会」を年3回開催しています。

本年度は、昨年度に引き続き、運動・スポーツをしたくてもできない人や興味のない人に、運動・スポーツの機会を提供できるよう、参加促進につながる効果的な次の4つのアプローチに重点をおき、各市町村で取り組みを実施しました。

- A より身近な地域に「出向く」
- B 運動未実施者に対する運動との「接点」を考える
- C 関係部署・団体との連携を考える
- D 広報等の周知方法を工夫する

その結果、本年度の県政モニターによる調査では、スポーツ未実施率が19.7%（H25：40.5% H26：22.4% H27：20.1%）と改善傾向になっています。

これらに加え、地域スポーツ推進協議会の代表を「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2017」に派遣し、全国の動向や先進事例を各市町村に還元しました。

また、本年度の第3回協議会では、県内のプロスポーツチームである山梨クィーンビーズとヴァンフォーレ山梨スポーツクラブとの連携・協働について検討しました。

● 「再発見！やまなしスポーツの力！！」講演会開催

オリンピックと市民スポーツの関わりについての理解を深め、スポーツへの参加促

進や指導者の指導意欲の向上につなげるため、オリンピック・パラリンピアンによる講演会を開催しています。

本年度は、10月23日（日）に、南アルプス市櫛形生涯学習センター「あやめホール」にて、シドニーオリンピック競泳日本代表の萩原智子氏と、リオデジャネイロパラリンピック走り高跳び日本代表の鈴木徹氏を講師に迎え、萩原氏に「笑顔のアスリート学」、鈴木氏に「義足を翼に変えて～パラリンピックと共に～」のご講演をいただきました。

さらに、講師のお二人と山梨県地域スポーツ推進協議会会長の飯田忠子氏をパネリストに、山梨学院大学准教授の長倉富貴



氏をコーディネーターに「やまなしスポーツの魅力と可能性」のテーマで、これからの山梨のスポーツ活動について考えるパネルディスカッションを行いました。

● 「スポーツ JanJan」の発行

地域スポーツの指導者向けに、啓発資料「スポーツ JanJan」を発行しています。

本年度は、効果的な4つのアプローチの方法と各市町村の取り組み事例、山梨学院大学の長倉准教授からのアドバイスを掲載し、スポーツ指導者の皆様が、住民の健康で豊かな生活と地域社会の活性化に向けた今後の取り組みに活用していただけるような内容となっています。

詳しくは、山梨県のホームページをご覧ください。



3 今後の取り組み

来年度以降も多様な主体が連携した取り組みにより、各地域のコミュニティが活性化し、地域住民が一層スポーツに親しめるよう、本事業の充実を図って参ります。

美術館をもっと身近に

～教育普及の取り組み～

県立美術館

よく美術館を訪れる人でも、「教育普及」の存在を知っている人は少ないかもしれません。学校と美術館をつなぐ手助けをしたり、さまざまなイベントを企画し、美術館の持つ魅力を広める役割を担っているのが「教育普及」です。ここでは、美術館の教育普及の取り組みをいくつか紹介させていただきます。

●スクールプログラム

現行の学習指導要領では、「博物館や美術館を利用した学習」がうたわれ、やまなし教育大綱においても「方針5」に芸術文化の向上、文化施設の利用が盛り込まれています。

このような背景もあり、県立美術館に授業で来館される学校への解説・体験活動である「スクールプログラム」は、近年大幅に増加しており、この数年は200校以上、約1万人もの利用者がいます。ほとんどの学校で、美術館スタッフが展示室を案内し、対話による美術鑑賞をとおり、主体的に学び、鑑賞への興味関心が高まるような学習を取り入れています。

鑑賞の学習といっても単に制作年や作者名・技法などを「知る」ことが目的ではありません。低学年においては「作品に対して自分なりの考えを持つ・発表する」、高学年では「他者と自分の考えを比較したり、作品を批評的に鑑賞する」など、まず自分自身の力で「感じる」ことを起点とし、発達段階に応じて、作品をとおしたコミュニケーションから、作品の意味を自分なりに見つけ出す学習を中心にすすめています。

その内容も、先生方との打ち合わせをとおして大きく変化します。特に低学年では、作品を見るだけでなく、作品制作や工作などで手を動かし、実感をともなった学習となるようにも心がけております。

何よりも、教科書の小さな図版から学ぶ教室での学習とは異なり、「本物から学ぶ」ことは美術館でしか行うことができません。教室で本物の作品を見せることと比べると、その質や量、場の持つ雰囲気などを総合して考えると、美術館で過ごす時間は大変貴重な体験といえるでしょう。



県立美術館と甲府市立新田小学校がともに行っている、特色ある取り組みがあります。これは同校の1年生から6年生までが毎学期ごと美術館に来館するという取り組みです。学期ごとに美術館で本物の作品を鑑賞し、卒業の前には展示室でギャラリートークを行います。同校の児童は作品鑑賞への興味・関心が非常に高く、学校・地域の文化レベルの向上を感じることができます。週末には美術館で友達と待ち合わせして、子どもだけで特別展を見に来てくれることもあります。

●アートカードみるえ（平成28年度春 各校配布済み）

県立美術館の教育普及では、平成25年度にアートカードを作成し、平成28年度に県内小中高校へ配布いたしました。職員室の棚の上や図書室、備品庫などに眠っていませんか？

アートカードは、崇高なイメージのつきまとう美術鑑賞を、もっとカジュアルで平易に教室に持ちこむことができる教材です。これのよいところは、机の上にカードを広げて眺めて遊ぶだけで、美術作品に関する鑑賞や学習ができるというだけでなく、①カードをとおしたコミュニケーション活動ができる（学活的活用）②他者との感じ方の違いに気づくことができる（道徳的活用）③言語活用能力を高めることができる（国語的活用）ということです。

もし先生方の学校で、美術館に来館する計画があるようでしたら、事前学習でみるえを使って遊んで

みてください。来館当日の子どもたちの作品への食いつきが格段に変わるでしょう。帰ってからの事後学習に使っていただくこともできます。平成27年度には有志の先生方に、学年ごとのティーチャーズガイドを作成していただきました。みるえセットさえあれば、どなたでも予備知識なしにすぐに授業ができるようになっています。



●アートボックス（貸し出し教材）

アートボックスの中には、本物の作品や、制作の工程がわかるもの、資料などを揃えています。版画、油彩、日本画など13種類を用意しています。教室で、作家による本物の作品や道具に触れることができます。

●教師のための鑑賞研究会

特別展ごとに、「教師のための鑑賞研修会」を実施しています。開催中の特別展について、担当学芸員からギャラリートークを行い、先生方の研究に役立てていただいたり、アートカードの研修をおこなったりしています。

●出前授業

先生方と一緒に授業を計画したり、アイデアを提供したりする中で、創作活動や鑑賞の授業などを行います。

山梨県立美術館 教育普及イベント一覧

		イベント名	主な対象	内容
キッズ・プログラム	つくる	1 造形広場	幼・小	山梨学院短期大学、伊藤美輝先生による、リサイクルの材料によるワークショップです。
		2 創作教室	小・中	ものづくりや造形活動をとおして、芸術に親しみます。
	みる・かんじる	3 こども美術館	小・中・保護者	特別展の作品について、学芸員と一緒に鑑賞します。
		4 家族で美術館を楽しむ日	小・中・保護者	山梨県立美術館の誕生日に、展示作品を鑑賞したり体験したりして楽しめます。
		5 中高生のためのアートレクチャー	中・高	中高生を対象に、ギャラリートークやレクチャー、創作活動などをします。
大人のためのプログラム	つくる	6 美術体験・実技講座	中・高・おとな	作家を講師に招き、作品制作について専門的に教えていただけます。経験者コースと初心者コースがあります。
	みる・かんじる	7 大人のための美術講座	おとな	特別展に関して、学芸員や講師が講義をします。
		8 ギャラリートーク	おとな	学芸員が展示室で作品について解説をします。
すべての人のプログラム	みる・かんじる	9 講演会	おとな	特別展に関して、講師にお話をさせていただきます。
		10 映画会	すべて	特別展に関連した映画を上映します。
	つくってかざる	11 みんなでつくる美術館（みなび）	すべて	子ども、大人、障がい者の誰でも参加できるワークショップです。できあがった作品はみなび展に展示します。

■イベント

教育普及では、右のような様々なイベントも企画しています。

「中高生のためのアートレクチャー」は、主に部活動で来館する学生を対象とした、休日のスクールプログラムのようなものです。

県立美術館の教育普及では、このほかにもたくさんの取り組みをしています。学校現場に寄り添い、多様なニーズにお応えできるよう、教育主事をご相談に乗らせていただきます。ご質問・ご要望などございましたら、遠慮なく下記までご連絡ください。

【お問い合わせ】
山梨県立美術館 教育普及
 TEL 055-228-3258



博学連携の推進 ～ 学校見学・出前授業をとおして～

県立博物館

山梨県立博物館は平成17年10月に開館し、今年で12年目を迎えます。開館当初より学校と博物館が手を取り合って、子どもたちの教育に取り組んでいこうと「博学連携」を進めてきました。今回は、県立博物館の様々な取組の中から学校見学と出前授業をとおして、「博学連携」の推進についてご紹介いたします。(県立博物館には2名の教育主事【小・中学校教員】がおり、博学連携事業を担当しています。)

◎ 学校見学をとおして

年間約130校、12,000人あまりの児童・生徒が来館する学校見学は、博学連携の代表格です。この学校見学の成否を握るのが、下見における事前の打ち合わせです。私たち教育主事は、先生方からの「博物館で、子どもたちに○○○のような学びをさせたい」といった声に、できる限り応えたいと日々思っています。ぜひ、見学の仕方等ご相談ください。

見学内容の一つに常設展のご案内があります。主に山梨の自然環境、大昔の生活、武田信玄公、富士川水運、江戸時代の城下町、水害などについて案内しています。ここでは、各

学校からの要望に応じた案内や、見学校の地域に関わった案内なども行うことがあります。見学は小・中・高校生が中心ですが、小学校1年生から高校生までの発達段階に合った案内ができるよう日々努めています。時には、各発達段階に合った言葉で伝えることの難しさを感じることもあります。教育主事として子どもたちに接することのできる喜びでもあります。

また、見学時期によっては企画展も見学いただけます。今年度開催の企画展の一つに「葡萄と葡萄酒(ワイン)」展がありました。学校からのお礼の手紙の一部に、次のような児童の感想がありました。「わたしは、「葡萄と葡萄酒展」でいろいろな昔の道具を知りました。見るものすべてが初めて見るものばかりで、見ては立ち止まり、説明を読んでいました。見れば見るほど気がひかれて、とても楽しい時間でした。」

子どもたちから「博物館って、楽しい！また来たい！」と言ってもらえるような学校見学になるよう、今後も努めていきたいと思えます。

◎ 出前授業をとおして

県立博物館では、教育主事や学芸員が学校へ出向く「出前授業」を行っています。内容は、主に社会科や総合的な学習の時間に関わったものです。具体的には、「昔の道具」・「信玄堤」・「修学旅行事前学習(鎌倉)」・「県内巡り」・「戦争(甲府・大月空襲)」などです。

中でも特に依頼の多いのが「昔の道具」です。まず専門の学芸員が、かつて山梨県の産業の中心であった養蚕について説明します。その後、昔の道具の体験(養蚕・石臼・わら草履・しょいこなど)をしていただきます。ふだんはなかなかできない体験なので、子どもたちの顔にも自然と笑顔が広がります。

今後も、学校見学や出前授業などをとおして学校と博物館がさらに協力し、子どもたちのために博学連携を進めていきたいと思えます。

◇問い合わせ先：山梨県立博物館 TEL 055-261-2631 (ホームページもご覧ください。)



見学前のオリエンテーション



教室で熱心に話を聞く子どもたち

分かる授業のためのICT活用研修について

～ eラーニングの効果的な教員研修への活用～

総合教育センター 情報教育部

◆ eラーニングの導入

総合教育センターにおいて、昨年度より、受講者の利便性(いつでも・どこでも・何度でも)を考え、平成29年度から、eラーニング教員研修の本格的運用に踏み切ります。

本センターの研修講座の課題として、特に2つのことを考えました。

(1) 受講者(教員)のスケジュール調整が難しい。

(2) 演習や実習の時間が少ないと感じることがある。

この課題のうち、(1)の課題への対応として、日程に関する事前説明を徹底することも考えられますが、集合研修で行う日数を少なくする、または研修時間の短縮等の手段として、eラーニングを導入することも考えられます。

また、eラーニングを導入し、従来の研修講座の講義の部分などをeラーニング化することにより、集合研修中の演習や実習に充てる時間を増やすことで、(2)の課題にも対応できると考え、総合教育センターにおける研修講座へのeラーニング活用について検討しました。eラーニングのメリットを生かした効果的な研修を進めるためには、さまざまな側面から、事前に研修計画から運営に関する検討を行う必要があります。

◆ eラーニングの活用

eラーニングの教員研修への活用は、国レベルの施策においても、生涯学習の視点から、学習の支援ツールとして、活用する方向性が示されています。また、他県においても導入が進みつつある状況で、その実施上の課題やメリットが明らかになりつつあり、ブレンディッド・ラーニングを導入し、集合研修とeラーニングを組み合わせる形で実施されている場合が多いと思います。

総合教育センターにおける研修講座の課題を踏まえて、eラーニング導入についての検討を行い、時間的・空間的制約を少なくすることで、「受講者の研修への取組を容易にすることができるようになる」、「ニーズやスキルに応じた効果の高い研修を効率よく進めることができる」などのメリットがあり、現在運用に向けた準備を進めています。

eラーニングによる研修のメリットを生かすためには、受講者の意欲喚起が重要な課題であります。受講者のモチベーションを高めるためには、受講者のニーズやスキルに応じて選択できるコースを用意するなどの工夫が必要です。



※ブレンディッド・ラーニング (Blended Learning)

集合研修とeラーニングを組み合わせ、双方のメリットを活かした研修や学習の方法



Yamanashi Prefectural Education Center
やまなしeラーニング(YoL)

耕作放棄地の再利用プロジェクト

北杜市立須玉中学校

本校では耕作放棄地の再利用に挑戦しています。北杜市で推進している「原っぱ教育」の一つとして本校独自に始めた取組です。昨年度、学校の敷地に隣接する耕作放棄地を借用し、その整地からのスタートでした。伐採、抜根から耕運に1学期末までかかり、1年目は2学期からでも栽培できる「そば」に挑戦しました。収穫後、棒で叩いて脱穀し、ふるいと扇風機で選別しました。その後、学区内から7名の指導者を招いてそば打ちを体験し、地域の方々と楽しい時間を過ごすことができました。

今年度はさらに耕作地を増やし、1年総合的な学習の時間ではカボチャ、サツマイモの栽培、家庭分野では調理実習の食材としてニンジン、サトイモ等の栽培、技術分野ではトウモロコシの栽培を始めました。1年の総合的な学習の時間では収穫したカボチャのうち約100個を出荷し、その収益で学級文庫を作る計画です。また、収穫祭として「焼き芋集会」を実施することができました。家庭分野では食育で掲げている「地産地消」そのものを体験する学習になりました。この地域では年々耕作放棄地が増加しています。この体験を通して地域産業や職業、そして第6次産業について学ぶ機会にしたいと思っています。



サツマイモ天日干し



そば脱穀



そば選別



カボチャ収穫



新校舎完成！ ～わかばのようにすくすくと～

県立わかば支援学校

本校は、知的障害者のための特別支援学校で、232人（小学部43人、中学部71人、高等部118人）が在籍し、特別支援学校としては比較的規模の大きな学校です。

今年で創立43年目（昭和49年開校）を迎え、教室不足と老朽化を解消するための全面的な校舎改築によって、このたび新しい校舎が完成しました。この改築には、山梨県が初めて発行した県民向けの地方債「富士の国やまなし県民債」の資金も活用されています。この場をお借りして、県民の皆様にご挨拶申し上げます。

さて、インクルーシブ教育システムや特別支援教育の理解の広がりにより、特別な支援を必要とする子どもたちの学びの場は確実に拡大しています。本校も保護者や地域の期待に応え、教育目標である「たくましい力とゆたかな心」を育み、子どもたち一人一人が、社会の一員として、それぞれの場で安定した社会生活を営むことができるよう、日々の教育活動に取り組んでいます。

今後も、県民債の活用目的の一つでもある山梨の将来を担う人材育成に貢献していける“わかば支援学校”をめざして参ります。



わかば支援学校 新校舎イメージ図



新しい体育館での始業式

平成28年度新収蔵品展

県立美術館

【 内 容 】

県立美術館では毎年新たに収蔵品を増やすことで、コレクション及び館全体の充実を図っています。本展では平成28年度に新たに収蔵した作品を紹介致します。

山梨県ゆかりの作家の作品としては、人物画を多く制作した高野真美（1900～1980）の後期作品、女性の身体をしばしば扱う松田百合子（1943～）の陶、鮮やかな色彩と大胆な構図が特徴的な櫻井孝美（1944～）の作品、具象画でありながら特徴的な色使いで心の内をも表した堀内洋子（1948～）の油彩画、そして昆虫の変態に自らの変化を重ねた五味祥子（1949～）の「羽化する人」シリーズより1点を展示します。また2001年に国指定重要無形文化財釉裏金彩保持者（人間国宝）に認定された吉田美統（1932～）の飾皿などの他、当館に新たに寄託となった作品もご紹介致します。

県立美術館コレクションの新たな仲間を是非ご覧下さい。



櫻井孝美《テーブルのある風景－暑い夏》 1984年



吉田美統 《釉裏金彩牡丹文 飾皿》 2016年

平成28年度新収蔵品展

日 時：平成29年3月18日(土)～4月2日(日)

場 所：山梨県立美術館 特別展示室

入場料等：無料

問い合わせ先：県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP <http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

特別展 「バロックの巨匠たち ルーベンス、レンブラント、ベラスケスと栄光の時代」

県立美術館

【 内 容 】

西洋美術の歴史のなかでも名だたる巨匠たちが登場したバロック期。バロック絵画の様式は16世紀末のイタリアを起源として、18世紀初頭までにヨーロッパ各地に広がりました。写実的な描写と明暗法を特徴とするドラマティックなバロック絵画は、鑑賞者の感情に訴えかける効果があり、当時のカトリック教会においては聖書を視覚的に表現するための手段として重要な役割を果たしました。

本展では、ポーランドのヨハネ・パウロ2世美術館、チェコのプラハ国立美術館、フランスのシャルトル会修道院美術館が所蔵する絵画を約50点展示します。ティツィアーノ、ヴェロネーゼなどバロック様式に影響を与えたイタリアの画家たち、レンブラント、ルーベンス、ブリュゲル(子)、ヴァン・ダイクなどオランダとフランドルの画家たち、さらにベラスケス、ムリーリョといったスペインの画家たちなど、巨匠たちが描き出した華麗なるバロックの世界を紹介します。

【 主 な 作 品 】



アンソニー・ヴァン・ダイク《エジプトへの逃避途上の休息》
ヨハネ・パウロ2世美術館蔵
© Museum John Paul II Collection



レンブラント・ファン・レイン《髭のある男の肖像》
ヨハネ・パウロ2世美術館蔵
© Museum John Paul II Collection

特別展 「バロックの巨匠たち ルーベンス、レンブラント、ベラスケスと栄光の時代」

日 時：平成29年4月15日(土)～6月11日(日)

場 所：山梨県立美術館 特別展示室

入場料等：一般 1000円 大学生 500円 県内 65歳以上、高校生以下は無料

問い合わせ先：県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP <http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

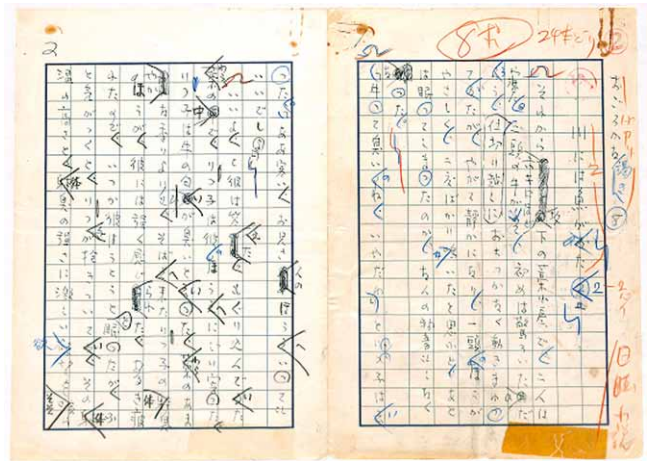
Click!

特設展「歿後五十年 山本周五郎展」

県立文学館

1 山本周五郎ってどんな人？

山本周五郎は1903（明治36）年6月22日、大月市初狩町に生まれました。本名は清水三十六。幼い頃に上京し、横浜の小学校を卒業すると東京・木挽町の質店である山本周五郎商店に徒弟として住み込み、その間に正則英語学校などで学びます。「山本周五郎」のペンネームは物心両面の援助を受けた店主の名にちなんでつけられました。1926（大正15）年4月、「文藝春秋」に掲載された「須磨寺附近」が文壇出世作となり、以降、庶民の生活と哀感を描いた「柳橋物語」や「季節のない街」、歴史小説「樅ノ木は残った」等を発表して人気を博しました。1967（昭和42）年2月14日、63歳で亡くなりましたが、現在も周五郎の作品は文庫本が増刷され、多くの人々に読み継がれています。



絶筆となった「おごそかな湯き」第8回原稿
1967(昭和42)年2月掲載

2 出生地は韮崎？大月？

周五郎の生まれた場所は本籍地である韮崎市大草町と言われていましたが、1968（昭和43）年3月、塩山商業高等学校（現・塩山高等学校）文芸部誌「扇状地」第10号に掲載された共同研究「山本周五郎の出生地をめぐって」によって、実は大月市初狩町であることが明らかになりました。周五郎は出生や幼い頃のことを聞かれると、東京の下町で育ったから江戸っ子だと答え、山梨のことを話したがりなかつたようですが、現在の甲斐市に生まれた山梨大弐を主人公にした「明和絵巻」や、「かんば沢」「甘利山」など山梨の地名が登場する武田家再興の物語「山彦乙女」など、山梨を題材にした作品を執筆しています。

人間への暖かい眼差しと洞察力で、今も読者の支持を得ている山本周五郎の生涯と作品の魅力を、代表作「青べか物語」の直筆原稿や「椿三十郎」「赤ひげ」など映画化された作品のポスター、著書、雑誌など約80点の資料で紹介합니다。



塩山商業高等学校文芸部誌
「扇状地」第10号
表紙の「1967」は誤り。

特設展「歿後五十年 山本周五郎展」

日時：平成29年4月29日(土)～6月18日(日)

場所：山梨県立文学館 甲府市貫川1-5-35

休館日：月曜日（5月1日は開館）

観覧料：一般320円／大学生210円 高校生以下の生徒・児童は無料

問い合わせ先：TEL 055-235-8080

関連HP <http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

企画展「ブータン しあわせに生きるためのヒント」

県立博物館

ブータン王国はヒマラヤ山脈の南にあります。四季があり、未開の自然が残る豊かな国です。1972年に四代国王がGross National Happiness（国民総幸福）を提唱。無理な開発をせず自然環境を大切に、人々の暮らしの中にある伝統文化を守りながらゆっくり近代化を進めるという考えの国です。2005年の国勢調査では「幸せ」と回答した人が約97%を占め世界が驚きました。彼らを感じている幸福感は、ブータンの人々が信仰するブータン仏教、豊かな自然環境、国民からの信頼と尊敬の念が厚い王室と密接な関わりがあるのかもしれませんが。

本展では日本初公開の貴重な資料も含めて、その根源となる伝統文化や思想に迫ります。「しあわせの国」として知られるブータンの人々の暮らしの中にある伝統文化を見つめることで、私たちがこれからの時代を生きていく上での「しあわせになるためのヒント」が見つかるかもしれません。

関連イベント

- ◆ 記念講演会「幸せの国ブータンから教えてもらったこと」 関健作氏（写真家）
4月16日（日） 午後1時30分～3時 生涯学習室
 - ◆ ブータン・デー 食べる、聞く、遊ぶ！ ブータンを体験できる1日です。
4月30日（日） 午前10時30分～午後3時 ロビー他
 - ◆ かいじあむ子ども工房＜ブータン編＞
4月8日（土）、5月13日（土） 午前10時30分～午後3時 ロビー
- ※いずれも申込不要、参加費無料



グル・パドマサンバヴァ坐像
（ブータン王国国立博物館蔵）



ドルジェ・チャン父母仏 タンカ
（ブータン王国国立博物館蔵）

企画展「ブータン しあわせに生きるためのヒント」

会 期：平成29年3月18日（土）～5月15日（月） 毎週火曜日休館（5月2日は開館）
観 覧 料：一般1000円、大学生500円 小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料
問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

平成29年度春季企画展と関連イベント 開催のお知らせ

県立考古博物館

◆ 春季企画展「甲府城下町の賑わい」が始まります

県立考古博物館では、平成29年4月22日(土)～6月11日(日)の期間に春季企画展「甲府城下町の賑わい」を開催します。

甲府城下町遺跡は、甲府城を中心に成立した武家屋敷や町人地・寺社地を含む江戸時代の遺跡で、これまでに60箇所を超える地点で発掘調査が行われています。近年では、県庁防災新館、甲府市役所などの建設、甲府駅周辺の開発に伴い、甲府城や武家屋敷地の移り変わりが明らかになっています。一方では、町人地で金の生産に関わる資料や宿場町の様子など、甲府城下町の賑わいを彷彿とさせる発見も相次いでいます。

今回の企画展では、山梨県埋蔵文化財センターと甲府市教育委員会がこれまで行ってきた発掘調査のうち、近年の出土品を総括的に展示紹介し、近世甲府の歴史について考えます。



▲磁器 江戸時代
甲府城下町遺跡

◆ 春季企画展「甲府城下町の賑わい」 ◆

会 期：平成29年4月22日(土)～6月11日(日)

観 覧 料：無料

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881

関 連 H P：http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/



▲金附着フィゴ羽口
江戸時代
甲府城下町遺跡

Click!

◆ 考古博物館イベント

「甲府城の瓦で拓本しおりをつくろう！」を開催します。

考古博物館では春季企画展「甲府城下町の賑わい」に関連して、4月30日(日)に考古博物館イベント「甲府城の瓦で拓本しおりをつくろう！」を開催します。本イベントでは、甲府城から見つかった本物の瓦を使って、専門家が行う作業の一つ「拓本」採取を体験し、オリジナルのしおりを作ります。普段はなかなか触れることの出来ない遺物を間近で見られるチャンスです。ぜひこの機会にご参加ください。



▲好きな瓦を選べます



▲拓本用の墨・墨拓で色をつけます



▲こんなにくっきりと柄が出ます!

◆ 考古博物館イベント「甲府城の瓦で拓本しおりをつくろう！」 ◆

平成29年4月30日(日) 午前9時～12時、午後1時～3時(予定)

常設展観覧者対象(常設展観覧料：一般210円、小中高校生・65歳以上無料)

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881

山梨近代人物館

学術文化財課

第5回展示「郷土のために尽くした人々」

山梨近代人物館では、4月から第5回展示として「郷土のために尽くした人々」と題し、さまざまな分野で郷土山梨の発展に尽くした人々のうち、9名の人物に焦点を当てて展示しています。今回は、その展示の一部をご紹介します。

山梨県では、地方三新法によって全国的に議会が設置された府県会規則の制定される以前の明治10年（1877）に、県議会が設置されました。その2年後、府県会規則に基づいて開設された県議会で、初代議長を務めたのが、南部町出身の近藤喜則こんどうよしのりです。近藤は県政で活躍するとともに、地元もろけんがくしゃに「蒙軒学舎（もしくは蒙軒塾）」という学校を設置し、周辺地域において教育活動に尽力し、地元の子弟に新しい時代を生きる知識をもたらしました。また、殖産人しよくさんじんと号して地域の産業振興に努め、紙の原料となる三椏栽培みつまたを振興しました。

その近藤の後を受け、歴代最長の9年10ヶ月県会議長を務めたのが、北杜市高根町出身の八巻九萬やまきくまんです。八巻は徽典館や地元出身の英学者永峯秀樹ながみねひできのもと、慶應義塾で学び、帰郷後若くして県会議員・県会議長・衆議院議員となって、長期間にわたって政界で活躍しました。議員引退後、八巻は山梨県出身学生の在京寄宿舍が無いことを懸念して山梨共修社を設立し、郷土の子弟の教育環境の向上に尽力しました。

県政以外で地方政治で活躍した人物として、甲府市長を2回にわたって努めた名取忠愛なとりちゅうあいが挙げられます。名取は市長のほか貴族院議員や、第十銀行の重役を務めるなど、県内政財界で活躍した人物です。名取は夫人とともに短歌の同人であり、私人としてさまざまな著作を残していますが、公人としても甲府商業学校（現在の甲府商業高校）の設立や、『甲府略志』の編纂、武田神社や長篠合戦戦没者慰霊碑の建立など、教育・文化面でも大きな業績を残しています。

そのほか今回の展示では、小田切謙明おだぎりけんめい、田辺有栄たなべゆうえい、野口英夫のぐちえいふ、山中共古やまなかきよこ、伊藤うたいとう、塚原等つかはらひとしについてご紹介いたします。ぜひ、山梨近代人物館で先人たちが郷土のためにどのように考え、何を残したのかについて感じ取って頂きたいと思います。



南部中学校構内にある
「近藤椎山翁碑」



若き日の八巻九萬



甲府市太田町の遊亀公園に建つ
名取が撰文の「遊亀公園碑」

山梨の文化財

学術文化財課

史跡 甲斐国分寺跡（笛吹市一宮町国分）

古代の甲斐国。その中心は現在の笛吹市にあったことが、古代の歴史資料や発掘調査の成果からわかっています。その代表的な文化財が、大正11年に史跡指定された甲斐国分寺跡と、昭和24年に史跡指定された甲斐国分尼寺跡です。

奈良時代、平城京に都を開いた聖武天皇は、各地域を治めるため国司とよばれる地方官を中央政府から派遣しました。国司とは、各国で民政や裁判を担当する、現在の知事のような立場でありました。

例えば、笛吹市春日居町に国府（こう）という地名が現在も残っています。国府とは国衙、国庁と同じ意味で、国の役所が置かれた場所を指すものであり、国司などの役人が勤務する国府が地名として残ったと考えられます。

この国府の近くに建立されたのが国分寺と国分尼寺です。741年（一説に738年）に聖武天皇が発した国分寺建立の詔により建立されました。詔の目的は、国の安泰や流行病など人々の不安を仏教により治めようとしたものでした。東京（武蔵国）にある国分寺市も同じ由来です。

史跡甲斐国分寺は、大正11年10月12日に指定されました（特別史跡平城京と同じ）。その後、昭和59年から4年間かけて発掘調査をおこない、南北330m、東西255mの伽藍（溝）を発見し、その大きさを確認しました（指定範囲は南北240m、東西220m、面積46,288㎡）。

その他に、中門跡、南門跡、回廊跡、僧房跡、食堂跡の類が発見されました。これらの調査成果から、甲斐国分寺は、金堂を中心にした建物配置で、南東に塔が配置され、回廊で外周を囲み、その背面に講堂や僧房を造った大官寺式の伽藍配置であることが判明しました。

また、発掘調査に伴い瓦や土器の遺物が多く出土しています。特に瓦には「馬」や「七」といった文字が書かれており、土器には墨で「金」「金寺」「読印」「講院」「日下」など建物や地名を想定させる墨書土器も発見されています。

現地を訪問すると塔跡、講堂跡、金堂跡、参道跡を見ることができます。そして文化財保護のための公有地化や、より見やすくわかりやすくするための史跡整備の準備を進めています。今後、峡東地区だけでなく、山梨を代表する文化財として新たな魅力となるでしょう。



史跡 甲斐国分寺跡



甲斐国分寺鬼瓦

第67回全国高等学校スピードスケート競技・ フィギュアスケート競技選手権大会（冬季インターハイ）

国体推進室

全国からの若き精鋭が山梨に集い、スピード・フィギュアの2種目で5日間熱戦を繰り広げます。

【会期】 平成30年1月22日(月)～26日(金)

【会場地市・実施競技・競技会場・開始式会場】

会場地市	実施競技	競技会場	開始式会場
富士吉田市	スピード	富士急ハイランドセイコ オーバル	富士河口湖町勝山ふれあい センター
甲府市	フィギュア	小瀬スポーツ公園アイスア リーナ	小瀬スポーツ公園武道館

第73回国民体育大会冬季大会スケート競技会

平成28年12月16日(金)日本体育協会国体委員会にて承認され、テーマ・スローガン・シンボルマーク・マスコットキャラクターが決定しました。

【テーマ】 「富士の国やまなし国体」

【シンボルマーク】

【スローガン】 「今、君は 氷上の風になる」



【会期】 平成30年1月28日(日)～2月1日(木)

【会場地市・実施競技・競技会場・開会式会場】

会場地市	実施競技	競技会場	開始式・表彰式会場
富士吉田市	スピード	富士急ハイランドセイコ オーバル	富士吉田市民会館 富士五湖文化センター (ふじさんホール)
甲府市	ショートトラック フィギュア	小瀬スポーツ公園アイスア リーナ	

【大会マスコットキャラクター】

やまなし観光キャラバン隊長
「武田菱丸」



冬季国体についての詳細は、山梨県教育庁国体推進室のホームページをご参照下さい。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kokutai/index.html>

Click!

「第3回贈りたい本大賞」が決まりました

県立図書館

県立図書館では、「やまなし読書活動促進事業」の一環として、「贈りたい本大賞－大切な人に贈りたい1冊－」の募集を行い、この度、「第3回贈りたい本大賞」を決定しました。応募総数は昨年を上回る3201点でした。

受賞者は次のとおりです。

●贈りたい本大賞

- ・ 2人のお姉ちゃんへ 『からすのパンやさん』
応募者：山田光香侗さん（双葉東小学校）
- ・ 娘へ 『ねえだっこして』
応募者：佐野敏昭さん（習志野市）
- ・ 就活中の姉へ 『何者』
応募者：小澤日菜子さん（都留高等学校）
- ・ 友人へ 『青い鳥』
応募者：根野仁美さん（山梨英和大学）
- ・ いじめに苦しんでいる人へ
『完全版 いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ』
応募者：島田萌花さん（鰍沢中学校）



贈りたい本大賞表彰式の様子

●学校賞

阿刀田高賞

山梨県立市川高等学校

山梨県立甲府昭和高等学校

甲斐市立竜王北中学校

山梨県立甲府南高等学校

山梨県立都留高等学校

山梨県立甲府西高等学校

山梨県立白根高等学校

山梨県立富士北稜高等学校

山梨県立韮崎工業高等学校

山梨県立巨摩高等学校

大月市立猿橋中学校

上野原市立西原小学校

